# 授業コンテンツを担当教員に無断で他者に配信することを固く禁じます。

# 光科学 1 第1回

東京理科大学先進工学部 マテリアル創成工学科 **曽我 公平** 

1

### はじめに

- 理系の大学では、<u>論理的なアプローチ</u>で問題解決をするための スキルを学ぶ。
- ・「学ぶ」:問題解決の手法を身に着ける

問題 A. 既に解いたことのある問題

B. まだ解いたことのない問題

←「応用力」を問われる

B.の問題を解決する能力の方が商品価値が高い(希少価値がある)

### はじめに

- 研究
  - ・いままで誰も明らかにしたことのない事実を明らかにすること。
  - ・オリジナリティ:誰も解いたことのない問題を解く
- 知識と論理的思考能力
  - ・知識:誰かほかの人が考えたこと。
  - 誰も解いたことのない問題:必要なのは知識に基づいて考える力
- ・<u>「わかる」≠「覚える」</u>
- 覚える:考えなくてもできる。意味がわからなくても覚えられる

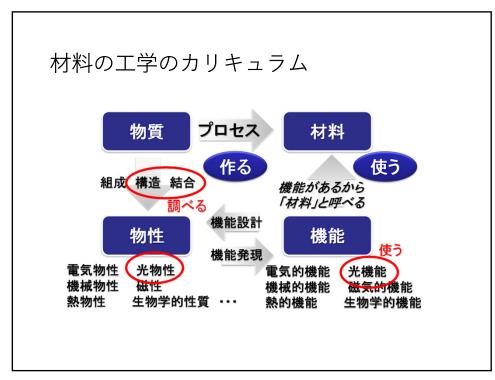
# 「わかる」のチェック方法:どこまでも「なぜ?」に答えられるか?

- どこかで、「本に書いてあったから」「誰かが言ってたから」が出てきたらアウト。
- 日本語の**文章で**答える。

3

#### はじめに

- •口述で聞いた内容をノートする習慣を
  - 黒板やスライドを写し取ることはわかっていなくてもできる
  - ノートをとる:聞き取って内容を理解する→まとめる→書きとる



# この授業の趣旨

- 光科学
  - 材料の光機能を使うために必要
  - 材料の光プロセスをコントロールするのに必要
  - ・物質の組成・構造・結合を調べるのに必要
  - 物質の性質を調べるのに必要
- ・光と物質の相互作用の理解
- 学術分野としては分光学

### 光科学

#### 分光学を通して、光と物質の相互作用を理解する。

- ◎材料光科学 1:**光の基礎と物質による吸収** 
  - 1. 「光」とは「電磁波」であり「量子」であるもの
  - 2. 吸光度の考え方
  - 3. **分子内の分極の振動**による**赤外光**の吸収
  - 4. 分子分極の回転によるマイクロ波の吸収
- ◎材料光科学 2
  - 1. スペクトルの形状、幅、分裂
  - 2. 多電子系のエネルギー準位とその表し方
  - 3. エネルギー準位の縮退と分裂
  - 4. 核磁気や電子スピンによる電磁波の吸収

7

# 地球温暖化(英: global warming)

- 温室効果(英: greenhouse effect)
- 地球温暖化(英: global warming)
- 気候変動に関する国際連合枠組条約(since 1992) (英: United Nations Framework Convention on Climate Change、省略名 称: UNFCCC)
- •質問:大気には酸素や窒素が二酸化炭素よりはるかに多く含まれるのに、なぜ温暖化に寄与しないの?

# 1. 「光」とは何か?

•皆さんにとって「光|とはなんですか?

9

# 1. 「光」とは何か?

- •皆さんにとって「光」とはなんですか?
  - 明るいもの?
  - 希望?
  - なみ?
  - 粒子?
- ・科学的に過不足のない説明

「光とは<u>電磁波</u>であり、かつ<u>量子</u>であるものである。」

粒子じゃなくて量子

ただの**波**じゃなくて**電磁波** 

# 1-1. 電磁波としての光

- 「電磁波」ってなぁに??
- 電磁波:<u>電場と磁場</u>の<u>波</u>
- 波とは何か?
- ・波とは周期的対称性をもつものや現象
- ・対称:ある操作の前後で見分けがつかないこと
- ・ある**操作**=空間的、時間的な進展→ <u>周期的対称性</u>
- ・電場と磁場が、特定の空間的、時間的な進展の後に見分けがつかない。
- 式で書けば
  - $f(\mathbf{r}) = f(\mathbf{r} + \mathbf{R})$ 
    - ・ 空間のRの進展について見分けがつかない
  - g(t) = g(t+T)
    - 時間のTの進展について見分けがつかない

11

# 何気なく使ってきた言葉は 知ってはいるがわかってはいない

- 光
- 電磁波
- 波
- 対称

# 電場とは何か?

- ・電場は電荷に力を及ぼすもの
- 電荷は電場の発生源
  - 鶏と卵のような関係
- クーロンの法則を式を使わずに言葉だけで説明してみよう
- ・時間的、空間的に電場と磁場が周期性を持つ波
  - マクスウェルの方程式で扱うのがスマート

13

## 物質中のマクスウェルの方程式

• マクスウェル方程式

呈式
$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \rho, \qquad \mathbf{D} = \varepsilon \mathbf{E} \qquad (1)$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0, \qquad \mathbf{B} = \mu \mathbf{H} \qquad (2)$$

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \qquad (3)$$

$$\nabla \times \mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} + \mathbf{J} \qquad (4)$$

$$\nabla \times \boldsymbol{H} = \frac{\partial \boldsymbol{D}}{\partial t} + \boldsymbol{J} \tag{4}$$

 $\nabla = (\frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial y}, \frac{\partial}{\partial z})$ : 空間における微分のベクトル

# 物質中のマクスウェルの方程式

• マクスウェル方程式

$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \rho, \qquad \mathbf{D} = e\mathbf{E}$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0, \qquad \mathbf{B} = \mu \mathbf{H}$$

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t}$$

$$\nabla \times \mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} + \mathbf{J}$$
(4)

• 波動方程式

$$\nabla^2 \mathbf{E} - \varepsilon \mu \frac{\partial^2}{\partial t^2} \mathbf{E} = 0$$

 $abla^2 \pmb{E}$ :空間の周期性  $rac{\partial^2}{\partial t^2} \pmb{E}$ :時間の周期性

• その解は

$$\mathbf{E} = \mathbf{E_0} \cos(\mathbf{k} \cdot \mathbf{x} - \omega t + \phi)$$

15

#### **GOAL:**

### マクスウェルの方程式の解における重要事項

- 1. 電場と磁場は常に<u>直交</u>する
- 2. 電場と磁場は進行方向に垂直な面内にのみに存在する →**横波**
- 3. 進行する速さは、誘電率 $\epsilon$ と透磁率 $\mu$ で

$$c = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon \mu}}$$

と表される。

※基礎物理定数は「真空中」の光速

$$c_0 = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon_0 \mu_0}} = 299,792,458$$
 定義値

### ベクトルとスカラーに注意

•マクスウェル方程式

$$\nabla \cdot \mathbf{D} = \rho, \qquad \mathbf{D} = \varepsilon \mathbf{E}$$
 (1)  
 
$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0, \qquad \mathbf{B} = \mu \mathbf{H}$$
 (2)

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0, \qquad \mathbf{B} = \mu \mathbf{H} \tag{2}$$

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t}$$

$$\nabla \times \mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} + \mathbf{J}$$
(3)

$$\nabla \times \boldsymbol{H} = \frac{\partial \boldsymbol{D}}{\partial t} + \boldsymbol{J} \tag{4}$$

$$\mathbf{E} = \mathbf{E_0} \cos(\mathbf{k} \cdot \mathbf{x} - \omega t + \phi)$$

ベクトルとスカラー: 演算のルールが違う

 $A \cdot B$ : 内積=スカラー 大きさのみ

 $A \times B$ : 外積 = ベクトル 大きさと回転軸の方向

17

$$\nabla^2 \mathbf{E} - \varepsilon \mu \frac{\partial^2}{\partial t^2} \mathbf{E} = 0$$

- 2階の微分方程式: 2回微分するともとの形の定数倍
- → 2回微分するともとの形と見分けがつかない
- → 2回の微分する、という操作に対して

周期的な対称性がある。

$$y = a\cos(bx), y = a\exp(-ibx)$$

$$\frac{dy}{dx} = -ab\sin(bx), \frac{dy}{dx} = -iab\exp(bx)$$

$$\frac{d^2y}{dx^2} = ab^2\cos(bx) = b^2y, y = ab^2\exp(bx) = b^2y$$

# 進行波

#### 時間の周期性:ωは空間の周期の逆数

 $(1/\omega$ 毎に $2\pi$ になる)

空間の周期性: kは空間の周期の逆数

(1/k毎に2πになる)/

 $E = E_0 \cos(k / x - \omega t + \phi)$ 

#### 位相空間:スカラーの無次元空間

・進行速度は単位時間あたりに**k**方向に進む距離

$$v = \frac{1/k}{1/\omega} = \omega/k$$

19

## 波数ベクトルk

$$\mathbf{E} = \mathbf{E_0} \cos(\mathbf{k} \cdot \mathbf{x} - \omega t + \phi)$$

- •ベクトル:<u>大きさ</u>と<u>方向</u>
- •大きさは単位長さあたりの波の数
- •方向は進行方向
- •電磁波、結晶学、物性学で重要な量。

#### 【例題1】

一次元の問題として、次の波動方程式

$$\frac{\partial^2}{\partial x^2}E = \varepsilon \mu \frac{\partial^2}{\partial t^2}E \quad (*)$$

が成り立つとき、その解として

$$E = E_0 cos(kx - \omega t + \phi)$$

を仮定する。この解が微分方程式(\*)を満たすことを証明し、 $k, \omega, \varepsilon, \mu$ の満たすべき条件を求めるとともに、その結果から光の速さ、cを $\varepsilon, \mu$ で表しなさい。

21

$$E = E_0 \cos(kx - \omega t + \phi)$$

を波動方程式の左辺に代入すると

$$\frac{\partial^2}{\partial x^2}E = -k^2E_0\cos(kx - \omega t + \phi)$$

一方右辺は

$$\varepsilon\mu\frac{\partial^2}{\partial t^2}E=-\varepsilon\mu\omega^2E_0\cos(kx-\omega t+\phi)$$

したがって

$$k^2 E_0 \cos(kx - \omega t + \phi) = \varepsilon \mu \omega^2 E_0 \cos(kx - \omega t + \phi)$$
  
これより $k, \omega, \varepsilon, \mu$ は $k^2 = \varepsilon \mu \omega^2$ を満たさなければならない。

一方、

$$c = v\lambda = \frac{\omega\lambda}{2\pi} = \frac{\omega}{k}$$

は任意の進行波に成り立つので、

$$c^2 = \frac{\omega^2}{k^2} = \frac{1}{\varepsilon \mu}$$

これより、光速は次のようにあらわされる。

$$c = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon \mu}}$$

23

【例題2】

$$\boldsymbol{E_0} = \begin{pmatrix} E_{x0} \\ E_{y0} \\ E_{z0} \end{pmatrix}, \qquad \boldsymbol{B_0} = \begin{pmatrix} B_{x0} \\ B_{y0} \\ B_{z0} \end{pmatrix}$$

 $E(r,t)=E_0\cos(k\cdot r-\omega t+\phi), \qquad B(r,t)=B_0\cos(k\cdot r-\omega t+\phi')$ において、これらがz方向に進行する波である、すなわち

「る版である、9なわら」 
$$\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

ならば

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (*)$$
$$\nabla \times \mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} \quad (**)$$

が成り立つとき、

$$\boldsymbol{E} \perp \boldsymbol{B}, \quad B_z = E_z = 0$$

となることを示しなさい。

$$\mathbf{E} \cdot \mathbf{B} = 0$$
$$B_z = E_z = 0$$

となることを証明する。

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (*)$$

2つのベクトル 
$$\overrightarrow{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}, \overrightarrow{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$$
 に対して 
$$\overrightarrow{a} \times \overrightarrow{b} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix}$$

$$\overrightarrow{a} \times \overrightarrow{b} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix}$$

25

(\*)の左辺 = 
$$\nabla \times \mathbf{E} = \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial x} \\ \frac{\partial}{\partial y} \\ \frac{\partial}{\partial z} \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} E_x \\ E_y \\ E_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial x} \\ \frac{\partial}{\partial y} \\ \frac{\partial}{\partial z} \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} E_{x0}\cos(kz - \omega t + \phi) \\ E_{y0}\cos(kz - \omega t + \phi) \\ E_{z0}\cos(kz - \omega t + \phi) \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial y} E_{z0}\cos(kz - \omega t + \phi) - \frac{\partial}{\partial z} E_{y0}\cos(kz - \omega t + \phi) \\ \frac{\partial}{\partial z} E_{x0}\cos(kz - \omega t + \phi) - \frac{\partial}{\partial x} E_{z0}\cos(kz - \omega t + \phi) \\ \frac{\partial}{\partial x} E_{y0}\cos(kz - \omega t + \phi) - \frac{\partial}{\partial y} E_{y0}\cos(kz - \omega t + \phi) \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} kE_{y0}\sin(kz - \omega t + \phi) \\ -kE_{x0}\sin(kz - \omega t + \phi) \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(*)の右辺 = -\frac{\partial B}{\partial t} = -\frac{\partial}{\partial t} \begin{pmatrix} B_{x0}\cos(kz - \omega t + \phi') \\ B_{y0}\cos(kz - \omega t + \phi') \\ B_{z0}\cos(kz - \omega t + \phi') \end{pmatrix}$$

$$= -\begin{pmatrix} \omega B_{x0}\sin(kz - \omega t + \phi') \\ \omega B_{y0}\sin(kz - \omega t + \phi') \\ \omega B_{z0}\sin(kz - \omega t + \phi') \end{pmatrix}$$
したがって、
$$E_{x0} = -\frac{\omega}{k}B_{y0}$$

$$E_{y0} = \frac{\omega}{k}B_{x0}$$

$$0 = \omega B_{z0} \rightarrow \overline{\omega} + \overline{\omega}$$

$$E_{x0} = \frac{\omega}{k} B_{x0}$$

$$E_{y0} = -\frac{\omega}{k} B_{x0}$$

$$0 = \omega B_{z0} \rightarrow \overline{\omega} \frac{\partial \mathcal{D} z \dot{\partial} \partial \mathcal{D} \dot{$$

に各成分を代入することで同様に電場の方向成分z=0が示せる。

- $\mathbf{E} \cdot \mathbf{B} = 0$
- z方向成分の電場や磁場はゼロになる。

$$v = c = \frac{1/k}{1/\omega} = \frac{\omega}{k} = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon \mu}}$$

# マクスウェルの方程式の解における重要事項

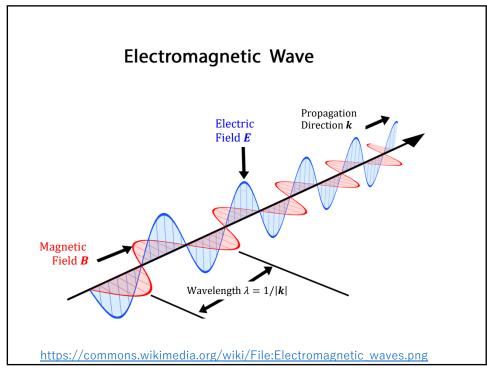
- 1. 電場と磁場は常に直交する
- 2. 電場と磁場は進行方向に垂直な面内にのみに存在する →**横波**
- 3. 進行する速さは、誘電率 $\epsilon$ と透磁率 $\mu$ で

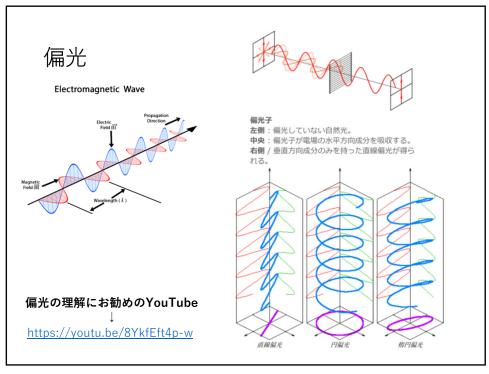
$$c = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon \mu}}$$

と表される。

※基礎物理定数は「真空中」の光速

$$c_0 = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon_0 \mu_0}} = 299,792,458$$
 定義値





# 第1回のまとめ

- 光とは**電磁波**であり、かつ<u>量子</u>であるものである。
  - 粒子じゃなくて量子、波じゃなくて電磁波
- ・電磁波において
  - 電場と磁場は常に<u>直交</u>する
  - ・電場と磁場は進行方向に垂直な面内にのみに存在する横波である
  - 電磁波の進行する速さは、誘電率 $\epsilon$ と透磁率 $\mu$ で

$$c = \frac{1}{\sqrt{\varepsilon \mu}}$$

と表される。

33

# 第1回の課題

#### 【課題1】

次の語句の科学的な意味について式や記号を用いずに1行以内の日本語で説明しなさい。

「光」:

「波」:

「電場」:

「電荷」:

「対称」:

# 第1回の課題

#### 【課題2】

(1) マクスウェルの方程式から電流密度J=0 のとき、次の式が成り立つことを示しなさい。

$$\nabla \times \mathbf{B} = \varepsilon \mu \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \ (**)$$

(2) (\*\*)式を用いて、z方向に進行する電磁波の電場のz方向成分がゼロになることを示しなさい。

35

# 授業課題の解答と提出方法

- LETUS上の課題のMS-Wordファイルをダウンロードし、 **PDFに変換して**LETUSで期限までに提出してください。
- ・必要に応じて数式エディタを用いてください。
  - 使い方はMS-Wordの「ヘルプ」タブで ?アイコンをクリックして「数式」のキーワードで検索してください。